



新春の逗子・神武寺と周辺の歴史散策

2022.1.18

布施 克彦 記

過去のさがみ探訪において、逗子方面は二度歩いていますが、逗子市内の北西部及び南西部を辿るコースでした。今回は初めて、市の東部を南北に歩きました。

今回の散策コースには急坂の登り下りがあるため、実施日までの天気が気がかりでした。幸い好天が続いたため、コース途中の山道の状況は悪くなく、予定通りの実施となりました。オミクロン株の感染拡大が憂慮される中での開催でしたが、1月18日の朝九時半に、東逗子駅前に参加者三十二名が集合しました。

今回歩く逗子の東部は、鷹取山から西に張り出した丘陵によって南北に分断され、その丘陵の上に神武寺があります。スタート地点の東逗子駅のある沼間地区は丘陵の南側にあり、解散地点である京浜急行の神武寺駅は、丘陵北側の池子地区にあります。探訪コースは、沼間地区散策の後北側の丘陵上の神武寺を目指し、その後北側の池子地区に下ります。神武寺を目指す登りと、神武寺からの下りが急坂となります。

従って今回の班分けは、参加者の希望に従って、「ふつう歩き班」と「ゆっくり歩き班」に分けました。「ゆっくり歩き」を希望される方が多く、三班のうち二班を「ゆっくり歩き班」としました。

最初に歩いた沼間地区は、狭い範囲に神社仏閣が並び、源頼朝や義経の父である源義朝が若い頃に館を構えて、ここを拠点に東国における源氏の勢力拡大を図った足跡が残されています。江戸時代初期に三浦半島を支配し、江戸幕府の海運制度整備に貢献した長谷川長綱ゆかりの地でもあります。



神武寺楼門

急坂を登った山上に伽藍が広がる神武寺は、奈良時代創建の古刹です。平安時代初期に天台宗に改宗してからは山岳宗教の聖地として現在に至ります。その間移り変わりゆく歴史の影響を少なからず受けてきましたが、何事もなかったかのように、厳然たる山岳宗教の聖地としての雰囲気は今に残しています。

さがみ探訪の参加者たちは神武寺の境内で一休みの後、今回コースの難関である池子への下り坂に挑みました。この道は、自然の岩石が露頭し、湧き出る清水の小さな流れがそれを絶えず洗っています。道を辿る人は、滑らないように、足の置き場を一步一步探りながら、進む必要があります。「ふつう歩き班」と「ゆっくり歩き班」とでは、やや時間差が付きましたが、全員怪我なく下り切ることができました。

その後、鎌倉の文化や歴史の影響を色濃く残した池子地区の散策を終えて、京浜急行の神武寺駅で解散となりました。